

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→②ダイナミックな多角的、立体構造：

神の視点、人類史に先立って配備された摂理、歴史、物事の背後に神意 [偶然はない]

→③古代ヘブル（イスラエル）史を通して記された正確な人間史：

過去（史実）を学び、現在を見分け、未来を見通す洞察力習得のテキスト

使徒パウロの宣教

その15

『コリント人への手紙第一』

3章

：1「さて、兄弟たちよ…御霊に属する人…肉に属する人、キリストにある幼子…」：

* 聖書には二通りの人々、一未信者と信者—が登場

* しかし、信徒に二通りある

1. 肉的

* 古い性質に支配され、霊的に成長できず、官能的、肉に留まっている

2. 霊的

* パウロが語っているキリスト者、

聖霊を受け、キリストにあって聖化、成熟への過程を歩んでいる

：3「あなたがたは、まだ肉に属しているからです…ただの人のように、歩んでいる…」

肉に属している

①まだこの世的

②生まれつきの傾向、状態

③霊的な心ではない

④墮落した人の性質に支配

☆このような信徒と、未信者との間に明確な違いはない

1. ねたみと争いに満ち、相互愛に欠けている

2. 霊的に誇り、思い上がり、争い好き

：4-5「…アポロとは…パウロとは何でしょう…しもべであって…」：

* 牧者はキリストの福音に仕える者、しもべ

* 食卓での奉仕者は執事

* パウロ、ここで「人」ではなく、「働き」に焦点

：6「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です」（下線付加）：

* 用いられているギリシャ語動詞から、神の働きは未完了、継続

：8「植える者と水を注ぐ者は一つとなって働き…」（新改訳、2017）：

* 信徒は「一つの目的」（NIV）のために、ともに働く

：9「私たちは神の協力者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です」：

* 神は、ご自分の働きを私たちを通して達成するために、私たちを選ばれた

：10「与えられた神の恵みによって、土台を据えました…その上に家を建てて…」：

* 私たちは神の建物の請負人^{うけおいにん}に過ぎない

：11「…ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです」：

* だれも、キリストが据えられた土台、「福音」を除いたり、変えたりできない

聖書

- : 12 「もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら」：
*最初の三つは神の創造的な芸術作品、成長も発達もない
*最後の三つは自然の生長と発達の結果
*最初の三つは永遠、最後の三つは滅びに至る

- : 13 「各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです…」 (下線付加)：
*信徒がキリストの裁きの座に現れる日

キリストのベマの座

☆報酬、冠、任命にあずかる

→コリント人第二5:10

- : 15 「もしだれかの建てた建物が焼ければ…」：
*永久性：正しい動機でキリストのためにしたことは何でも、残る
*それ以外のすべては焼き尽くされる

救いと報い

☆救いは無償の賜物

☆報酬は、実を实らせることによって得られる

☆救いを、信徒は現在すでに所有

☆報酬は、キリストの再臨時に与えられる未来の所有

- : 16 「あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられる…」：
*人の構造と神殿（幕屋）の構造は、相似

- : 17 「もし、だれかが神の神殿をこわすなら、神がその人を滅ぼされます…」：
*神の神殿（霊的な信徒）を破壊する分派が存在

- : 18 「だれも自分を欺いてはいけません。…知者になるためには愚かになりなさい」：
*真理探究への究極的障害は、自分はもうそれを得ていると仮定することにある

ペルシャの箴言

☆自分が知っていることを知らない人は眠っている
その人は目覚める必要

☆自分が知らないことを知っている人は学びの人
その人に教える必要

☆自分が知らないことを知らない人は愚か者
その人を避ける必要

☆自分が知っていることを知っている人は知恵ある者
その人に従う必要

- : 19-20 「なぜなら、この世の知恵は、神の御前では愚かだからです…」：
*すべてに理屈を求めようとする人の能力は、神の主権に立ち向かう人の悪知恵
*神を神ともしない知者の考えることは空しい →ローマ人1:21

- : 21 「ですから、だれも人間を誇ってはいけません。すべては、あなたがたのものです」：
*「すべてのものはキリストにあってあなたがたのもの」の意

- : 23 「そして、あなたがたはキリストのものであり、キリストは神のものです」：
*未信者には「この世、生命、死、現在、未来」は人の存在にとっての五つの究極的な暴君

ハイデルベルグ信仰問答

☆人生と死において、あなたの唯一の慰めは何ですか

「真実な救い主、イエス・キリストに属するということが、これが私の最大の慰めです。」

→ローマ人14:8

聖書

キリスト者の石鹸

「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」(ヨハネ第一1:9)

4章

- : 1 「…私たちを、キリストのしもべ、また神の奥義の管理者だと考えなさい」 :
 - * 主人の下に置かれる「しもべ」への言及
 - * 管理者には、説明する義務がある
- : 2 「この場合、管理者には、忠実であることが要求されます」 :
 - * すべての信徒は、忠誠と献身を実証しなければならない
- : 3 「…事実、私は自分で自分をさばくことさえしません」 :
 - * 自分に対して客観的である、の意
 - * パウロ、自分の使徒職に関する裁きを神に委ねる
- : 4 「私にはやましいことは少しもありませんが…それで無罪とされるのではありません…」 :
 - * もし神がパウロを、使徒としての忠誠を基に正当化されるとしたら、パウロは、自分で獲得できる義、一偽りの義— を人々に教えるであろう
 - * 律法を成就し、律法を終わらせられた主が私たちを裁く方
- : 5 「…主が来られるまでは、何についても、先走った裁きをしてはいけません」 :
 - * 毒麦が抜かれるのは、世の終わり
 - * キリストの再臨のタイミングは未知であるが、確實

: 7 「いったいだれが、あなたをすぐれた者と認めるのですか…誇るのですか」 :

三つの修辭疑問

1. あなたは、他人と違うと思っているのか？
 - ★あなたは他人と変わらない
 2. もらわなかった賜物が何かあるのか？
 - ★神がすべてを支給された
 3. なぜあなたは誇るのか？
 - ★誇るものは何もない
 - ★源を知らないことは、忘恩の極み
- : 8 「あなたがたは、もう満ち足りています。もう豊かになっています…」 :
 - * コリントの人々は、ストア哲学の影響を受け、自分たちが自給自足であることを誇っていた
 - * 王のしもべではなく、自ら王であると自負し、自分たちを欺いていた
 - : 9 「…こうして私たちは、御使いにも人々にも、この世の見せ物になったのです」 :
 - * 使徒は人々だけでなく、御使いにもいつも見られ、さらけ出され、この世では落ち着く先がない
 - 11-13節
 - : 10 「私たちはキリストのために愚かな者で…弱い、あなたがたは強いのです…」 :
 - * キリスト者は、この世に侮られる「福音」を、誇らしく反映
 - * 福音がこの世の目に愚かであるように、福音の担い手もこの世では卑しめられる
 - : 14 「私がこう書くのは…愛する私の子どもとして、さとすためです」(下線付加) :
 - * 愛する父、一パウロ— からの諫めの言葉
 - : 15 「たといあなたがたに、キリストにある養育係が一万入あろうとも…」(下線付加) :
 - * 主人の子どもの面倒を見た、裕福な家庭の奴隷、あるいは、自由人
 - * 養育係の職務は他の人が代わることができたが、父に代わることはできなかった
 - : 18 「…思い上がっている人たちがいます」(下線付加) :
 - * 膨れ上がるパン種は罪の型、一膨れ上がって墮落する—

聖書

- : 19-20 「しかし、主のみこころであれば、すぐにもあなたがたのところへ行きます…」 :
- *パウロは自分の思うままに行動する自由な代理人ではなく、主の指示に従った
 - *この世の雄弁なスピーチ、装飾的、巧みな話術など上辺の技巧とは対照的に、神の言葉には聖霊の力が伴う
- : 21 「あなたがたはどちらを望むのですか。私は…愛と優しい心で行きましようか」 :
- *手に負えない生徒、子どもに挑戦する教師、父

5章

- : 1 「あなたがたの間に不品行があるということが言われています」 (下線付加) :
- *人にとって最も聖くあるべき領域での乱用、性の乱用
 - 「…異邦人の中にもないほどの不品行で、父の妻を妻にしている…」 (下線付加) :
 - *義理の母
 - *性的不道徳は、ローマの掟でも、旧約でも禁制
 - *イスラエルでは、石打の刑、「死に至る罪」
 - ⇨神は、結婚を重要な真理を伝えるために用いられた
 - ☆結婚に関する聖書の定義、神の言葉は非常に重要!
- : 2 「それなのに、あなたがたは誇り高ぶっています…」 :
- *他者に対するある種の寛容は、神への叛逆
 - *主にある自由は、私たちが自分のしたいことをする自由ではなく、すべきことをする自由
- : 5 「このような者をサタンに引き渡したのです…彼の霊が主の日に救われるためです」 :
- *焦点はいつも、信徒の「復興」
 - *基本概念
 - † 教会外の領域は、サタンの領域
 - † 信徒にそれ以上肉による罪を犯させないため、彼/彼女をサタンが支配している領域に放つ
 - *霊的落伍が導く身体的結末
 - *信徒は、神の御手の中で安全
- : 6 「あなたがたの高慢は、よくない…ほんのわずかのパン種が…全体をふくらませる…」 :
- *自分に栄光を帰すことや自己放縦に対する警告
- : 7 「新しい粉のかたまりのままでいるために、古いパン種を取り除きなさい…」 :
- パン種**
- ☆罪の「ひな型」
 - ☆膨れ上がることによって、墮落させる
 - ☆制御できない状態、急に崩壊する状態を象徴
- : 8 「ですから、私たちは…純粹で真実なパンで、祭りをしようではありませんか」 :
- *主の御旨を行うため、自らを聖めて「主の聖餐」に臨む
- : 9 「私は前にあなたがたに送った手紙で、不品行な者たちと交際しないようにと書き…」 :
- *失われた手紙
 - *10節から、この「前に送った手紙」が誤解を招いたことがうかがえる
- : 11 「私が書いたことのほんとうの意味は、もし、兄弟と呼ばれる者で…」 :
- *パウロ、信徒でありながら、キリストの掟、使徒の指示に従わない人々との交際を避け、彼らの悪に巻き込まれないように、悪影響を受けないように、と警告
 - *パウロの厳しい指示はあくまでも、その兄弟の立ち直りを意図
 - *人と食卓をともにすることは、「その人と一つになること」
- : 12 「外部の人たちをさばくことは、私のすべきことでしょうか…」 (下線付加) :
- *世俗の人たち、未信者
 - *裁く対象は、教会内の不信者
- : 13 「…その悪い人をあなたがたの中から除きなさい」 :
- 申命記17:7 「石打ち刑」による悪の取り除き